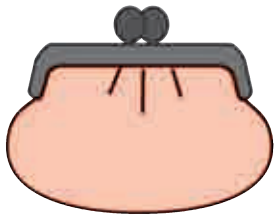


2. 登別市の家計（予算）のやりくり

1. 予算編成の工夫



枠配分方式による予算編成

配分枠の範囲内で各部署が自由に予算編成を行う仕組みを導入し、事務事業の見直しや各部署の判断での予算の重点配分、歳出予算総額の減を図りました。

【事務事業の見直し】

- ・消費生活モニターの廃止
- ・小学校副読本の見直し
- ・中学校音楽祭の廃止
- ・ときめき大学の送迎バスの廃止

【各部署による財源の重点配分】

- ・職員研修の重点化
- ・登別・白石・海老名友好交流事業の拡大
- ・保育所避難用乳母車の購入
- ・スキー体験学習事業の拡大

3つの重点項目

1. 危機管理体制・防災体制の強化：東日本大震災の発生を踏まえ、津波被害を防ぐ取り組みを進めるほか、さまざまな災害を想定した防災体制の強化に取り組みます。

【主な取り組み】 防災対策強化事業（541万円）、本庁舎耐震対策調査（84万円）、幌別駅自由通路耐震補強事業（400万円）、橋梁長寿命化計画（940万円）、道路排水対策（1億5,000万円）、義務教育施設の耐震診断（729万円）、小学校建替基本設計策定（3,100万円）

2. 地域経済促進への取り組み：厳しい市内の経済情勢を踏まえ、公共事業による短期的な経済対策を講じるとともに、将来を見据え、新たな産業の創出に取り組む市内企業などへの支援や東日本大震災の風評被害で大きな打撃を受けた観光産業の支援に取り組みます。

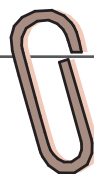
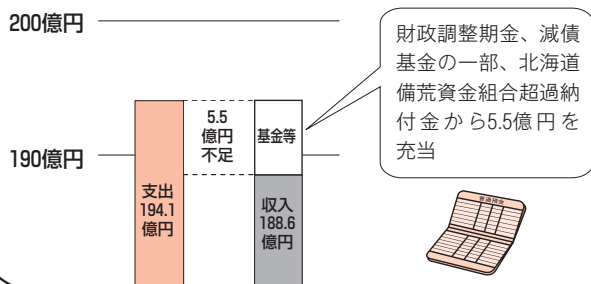
【主な取り組み】 公共事業の重点実施（全会計・19億4,636万円）、起業化事業に対する補助（300万円）、新サービス創出のための研究への補助（60万円）、登別ブランド推進事業への補助（420万円）、空き店舗を活用した開店者への補助（314万円）、買い物支援事業への補助（100万円）、住宅用太陽光発電システム設置への補助（442万円）、観光協会によるインフォメーションプラザへの補助（1,300万円）、観光協会による観光振興特別対策事業への補助（4,190万円）、登別地獄まつり半世紀記念事業の実施（192万円）観光誘客促進事業の実施（644万円）

3. あらゆる世代が安心して暮らせる環境の整備：高齢者や障がい者が地域で安心して暮らすための事業や子どもを産み育てやすい環境をつくるための事業に取り組みます。

【主な取り組み】 社会福祉協議会に対する補助（2,960万円）、障がい者の方を対象とした多機能型事業所への補助（552万円）、身体・知的障害者相談員の設置（11万円）、高齢者等訪問見守り事業の実施（200万円）、子育て支援センターの運営（838万円）、ひろば型子育て支援事業の実施（740万円）、産後子育てママ派遣事業の実施（17万円）、こどもショートステイの実施（16万円）、児童虐待防止啓発事業の実施（43万円）、（仮称）登別児童クラブの整備（884万円）

2. 貯金（基金等）の取り崩し

平成24年度の一般会計支出は、民生費や衛生費、給与費など、必要な経費を積算した結果、194.1億円となりました。これに対して、市税や地方交付税をはじめとした一般会計の収入見込みは、188.6億円に過ぎず、5.5億円の収入不足が見込まれるので、自由に使える貯金（基金等）を取り崩して、不足分を補うことにしました。



自治体財政のひとくちメモ

市は、もしもの時の備えや特別な事業に使うために、19の基金を積み立てており、このうち、収入が足りないときに自由に使えるものは、『財政調整基金』、『減債基金』の一部、『北海道市町村備荒資金組合超過納付金』の3種類です。

平成23年度末の3つの基金等の残高は、10億8,629万円ですが、平成24年度に収入不足を補うために一部を使うことから、年度中に財政状況が好転しないときには、平成24年度末には5億3,629万円まで残高が減る恐れがあります。

収入を多く占める地方交付税は国の懐具合や考え方で増えたり減ったりが大きいので、もしもの時のためにも基金等はできる限り多く確保しておかなければなりませんので、平成24年度の予算執行にあたっては、5億5,000万円の使用額をできる限り少なくするため、歳入確保と歳出抑制に努めます。

問い合わせ

財政グループ (☎⁰⁵ 1 3 3 1)